

# 大久保医院新聞

平成 31 年(2019 年)1 月 7 日発行 (第 152 号)

発行所:大久保医院 (Tel:045-788-6565)

日本小児科学会認定専門医、日本糖尿病学会認定専門医

所在地:横浜市金沢区六浦南2丁目 42 番 18 号

<http://www011.upp.so-net.ne.jp/ookubo-c-HP/>

## 新しい年を迎えて

明けましておめでとうございます。

平成最後のお正月になりましたが、皆さんは、いかがお過ごしでしたか。私は、元旦には、例年の如く近くの氏神(富岡八幡宮)をお詣りし、3日には、鎌倉の本覚寺に参拝し、にぎり福を新しくしました。



今年も、皆さんにとって、健康な一年になりますよう祈っております。

## インフルエンザの対応

インフルエンザの流行が昨年12月より始まり、1月から本格的な流行期に入りました。

毎年冬になるとインフルエンザを記事とする大久保医院新聞を発行しており、重複する部分もありますが、昨年新聞を参照してもQ&A形式で、説明します。

### Q1) 今年のインフルエンザの流行状況はどうか。

A1) 昨年12月後半から流行期に入りました。横浜市衛生局の報告によると、流行しているのはインフルエンザA型となっています。当院では、12月第51週(12/17~12/23): 1名(A型1名)、第52週(12/24~12/30): 4名(A型4例)、1月第1週(12/31~1/6): 3例(A型3例)でした。

流行状態を過去のデータを参考にすると流行のピークは今月の中旬から2月の初期と予想されます。

### Q2) どのような症状・病状ならインフルエンザを疑うのでしょうか。

A2) 以下の3つが当てはまるとインフルエンザを疑います

- ① 症状出現の2-3日前にインフルエンザ患者に接触又は同じ室内で多人数で会食・会合したとき
- ② 38℃以上の発熱が突然出現。
- ③ 寒気、体(関節)の痛み、咳の症状

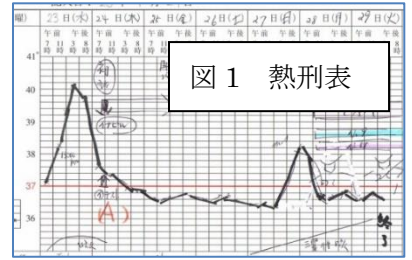
### Q3) 夜間や休日にインフルエンザに罹ったと感じた時点でどうしたらよいのでしょうか。

A3) 高熱が続きますが、全身状態が良い(意識清明、呼吸状態良好)なら、急いで救急の医療機関にかかる必要はありません。体を暖かくして、暖かい飲料をのんでひたすら体を休める(就寝)ことを勧めます。高熱が続きますが、家にある、解熱剤、鎮痛解熱剤、総合感冒薬を服用することは、勧めません。翌日の昼間にかかりつけ医を受診して、必要ならインフルエンザ抗原迅速検査を受けて診断を確定することを勧めます。(Q2の3要件に合致なら、必ずしも検査を必要としません)。

### Q4) 発熱(高熱)に対しどう対処したら良いのでしょうか

A4) ごく最近までは、発熱(高熱)に対して、氷枕して、解熱剤を投与していました。私が子供の頃は、抗生剤の筋肉注射を併用までしていました。最近になり、かぜ症候群(インフルエンザを含む)の初期の発熱は、ウイルス

ス)に対する生理的・合目的な反応であることが理解される様になり、解熱剤(カロナール剤等)・鎮痛解熱剤(ロキソニン等)・総合感冒薬(PL剤等)の服用を控えるたほうが良いと変化しました。これらの薬剤の使用することは、インフルエンザウイルスと戦う兵隊さんを引き上げるに等しいと考えます。



インフルエンザに罹患した時の高熱は、暖かくしてひたすら寝ていると、多くは、深夜に数時間高熱が続き、その後汗をかいて翌日に熱が下がります。(図1の熱刑表参照)

### Q5) 大久保院では、インフルエンザにどう対処しているのですか。

A5) 左欄のA2)に述べた3つの兆候があった場合、原則としてインフルエンザ抗原迅速診断キットで診断を確定します。その検査で陽性になった場合、又は検査をせず臨床診断した場合は、治療を開始します。

0歳代及び5歳未満は、抗インフルエンザ薬(タミフル)単独で治療します。5歳以上は、1回吸入で治療が完結の抗インフルエンザ薬(イナビル)単独で治療します。

全体の8割強は、抗インフルエンザ薬単独で治療が可能です。残りの2割は、漢方剤を併用しています。

なお、新しい抗インフルエンザ薬(ゾフルーザ錠)が2018年3月に保険採用されました。この薬は1回の服用で治療が完結する経口薬です。当院では、この薬は、発売から1年未満で、副反応や薬剤耐性等の情報が少ないため本年度は、処方を見合わせます。

### Q6) いつから登園・登校・出勤が可能でしょうか

A6) 発熱期間が3日、その後、平熱2日が平均的な経過です。その経過なら、6日目に登校・出勤が可能です。保育園児・幼稚園児は、平熱3日を見る必要があります。

### Q7) 抗インフルエンザ薬服用中の注意点はなんですか

A7) 乳幼児~学童で発病後数日間に異常行動が見られることがあります。この異常行動は、抗インフルエンザ薬を服用しない人にも出現しているので、インフルエンザウイルスにより引き起こされるものと考えられています。

発病後数日は、患者を一人しないよう十分に注意してください。

## 編集後記

平成31年の最初の院内新聞を発行します。大久保医院は、平成4年の開院ですので、平成の終わりの今年は27年目になります。皆さまの信頼を得て、無事一年が終わるよう願っています

当院はユニセフ活動に協力しています。皆様より頂いた平成30年10月4日より平成31年1月7日までの募金1,434円をユニセフ協会に送金します。新聞をお持ちになる方はコピー代として募金活動にご協力下さい